永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2013年 4月

「パートⅠ－贖罪の犠牲（Ⅳ）」「罪のための神の治療」「最後の試練と分離」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強　「パートI－贖罪の犠牲（IV）」　4

朝のマナ　「罪のための神の治療」　8
信仰によってわたしは生きる

現代の真理　「最後の試練と分離」　39
最後の出来事

力を得るための食事　「しそまき」　46

お話コーナー　「高いところでの助け」　48

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日　2013 年 3 月 31 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;
HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

魂の救いにとって重要不可欠な真理

真理は魂に受け入れられねばならない。それは意思の服従を要求する。もし真理を理性だけでなっとくすることができたら、それを受け入れるのに誇りは邪魔にならないであろう。しかし真理は、心のうちにおける恵みの働きを通して受け入れられるのである。そして、その受け入れは、神のみたまによって示されるいっさいの罪を放棄することにかかっている。真理を受け入れるように心が開かれ、真理の原則に反するいっさいの習慣と行為を良心的にやめるのでなければ、人はどんなに真理の知識を得ることのできる恵まれた立場にあっても、それは何にも役にたたない。神のみこころを知り、これを行いたいというまじめな願いをもって神に屈服する人々に、真理は彼らを救う神の力として示される。こういう人々は、神のために語る人と、ただ自分の考えで語る人とを区別することができる。パリサイ人は、彼らの意思を神のみこころの側に置かなかった。彼らは真理を知ろうとつとめないで、これを言いのがれる何らかの口実をさがそうとしていた。だから彼らはキリストの教えがわからないのだと、キリストは示された。(各時代の希望中巻 238)

わたしたちは、キリストがユダヤ人にお尋ねになったように、このメッセージの宣布が天からのものか下からのものかを尋ねる。イエスはユダヤ人のように継続的な好機と特権のなかった人々が罪を自覚させられ、真理に改心するのをご覧になるのを霊のうちに喜ばれる。このお方は「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました」と言われた(マタイ 11:25)。主は救いの計画が非常に明白なので、霊的でも謙遜でも学びたいとも思わない人々、すなわち自己満足で思いあがっていた人々は、真理は霊的に識別されるものであるがゆえに、福音の美しさを見ることができなかった一方で、子供もその単純さのうちに真理を理解することができたことを喜ばれた。しかし、だれでも正直で、教えを受ける心をもち真理を知ろうと望んで子供のような者はみな、神の力が表されたときにそれがわかり、それを認めるのである。(原稿 16, 231)

贖罪

パート I －贖罪の犠牲（IV）

VIII. 贖罪の備えは全人類を包含している

キリストの贖罪は全人類家族を含んでいる。だれ一人、地位の高い者も低い者も、富んでいる者も貧しい者も、自由人も奴隷も贖いの計画からもれていた者はない。（手紙 106, 1900 年）

キリストはエルサレムの門の外で苦しまれた。なぜなら、カルバリーは城壁の外にあったからである。これはこのお方が死なれたのはヘブル人のためだけではなく、全人類のためであったことを示すためであった。このお方は堕落した世にご自分が彼らの贖い主であることを宣言し、彼らにご自分の提供する救いを受け入れるように訴えておられる。（ウォッチマン 1906 年 9 月 4 日）

かぐわしい香煙が神のみ前に立ち上っているあいだに大祭司があたたかい血を恵みの御座にふりかけたように、わたしたちが自分たちの罪を告白し、キリストの贖罪の血の力を嘆願しているあいだにわたしたちの祈りは天へ上り、わたしたちの救い主のご品性という功績に香りづけられて上るのである。わたしたちの無価値さにもかかわらず、罪を取り除くことのおできになるお方、そして罪人を救いたいと望み、切望しておられるお方がいることを、わたしたちは覚えているべきである。ご自身の血をもって、このお方は悪を行うすべての者のために刑罰をお受けになった。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 9 月 29 日）

イエスは、ご自分の犠牲が天父によって受け入れられたとの確証が与えられるまではご自分の民から尊敬を受けようとされなかった。イエスは天の宮廷へのぼり、その血によってすべての人が永遠の生命を得られるように、イエスが人類のために払われたあがないは充分であったとの保証を神ご自身から聞かれた。（各時代の希望下巻 324）

人々の罪は、象徴的に務めを果たしている祭司、すなわち民のための仲保者に移された。祭司は自分自身では罪のための捧げ物となり、また自分の命をもって贖罪をなすことはできなかった。なぜなら、彼もまた罪人であったからである。

であるから、自ら死を受ける代わりに、彼は傷のない小羊をほふり、罪の刑罰は無垢の獣に移されたのであった。この獣はこうして彼の直接の身代わりとなり、イエス・キリストの完全な捧げ物を象徴した。この犠牲の血を通して、人は世の罪のための贖罪をなすキリストの血を将来に見るのであった。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1878 年 3 月 14 日)

IX. 贖罪の種々の結果

キリストの贖罪はとこしえの恵みの契約に永遠に印を押した。それは神が人類家族に恵みの自由な伝達を保留しておられたすべての条件を満たすものであった。そのとき、満ちみちた恵み、憐れみ、平安そして愛が、アダムの血統の最も罪深い者へ自由に働くことを妨げていたすべての障壁が打ち壊された。(原稿 92, 1899 年)

わたしたちのために、このお方はカルバリーの十字架上で死なれた。このお方は代価を支払われた。正義は満足させられた。キリストを信じる人々、自分たちが罪人であり、罪人として彼らが自分たちの罪を告白しなければならないことを自覚する人々は、十分にして無償の許しを受ける。(手紙 52, 1906 年)

不法によって、人間は神から切り離され、彼らの間の伝達は途切れたが、イエス・キリストはカルバリーの十字架上で死なれ、ご自分の身に全世界の罪を負われた。そして天地の深淵に橋がかけられた。キリストは人を深淵へ導かれ、かけられた橋を指さして、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言われる。神はわたしたちに、ご自分に忠実になるかならないか証明することのできる恩恵期間を与えておられる。(原稿 21, 1895 年)

信仰を通して見る贖罪の犠牲は、罪の意識の下で圧倒され震えている魂に平安と慰めと希望をもたらす。神の律法は罪の探知機であり、罪人が死につつあるキリストに引き寄せられるとき彼は罪の嘆かわしい性質を認め、悔い改め、救済策、すなわち世の罪を取り除く神の小羊をつかむ。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 9 月 2 日)

このようにしてキリストの十字架を通して、人類は神へ和解される。キリストは見捨てられた人を養子になされ、彼らはこのお方の特別な保護の対象、神の

家族の一員となる。なぜなら、彼らは神の御子を自分の救い主として受け入れたからである。彼らに神の子、すなわち神の相続人、キリストと共同の相続人になる力が与えられる。彼らはキリストが自分たちにとってどのようなお方かについて、また彼らが主の家族の一員として受けることのできる特権について知的な知識を得る。そしてその無限のへりくだりのうちに、神は彼らに対して父の関係に立つことをお喜びになる。(手紙 Letter 255, 1904 年)

世は、キリストが無限の代価をもって人類を買われたことを認めない。彼らは創造と贖いによって、このお方がすべての人類に対して正当な要求をもっておられることを認めない。しかし、堕落した人類の贖い主として、このお方には所有証書が与えられており、それはこのお方に彼らをご自分の所有物として権利を主張する資格を与えている。(手紙 136, 1902 年)

キリストはご自分が人類の身代わりとなり保証人となることを誓われ、人に二度目のテストをお与えになった。人がエホバの最も小さな規則でも犯したとき、それはテストが大きい場合とまったく同様に不従順であった。しかし、いかにして恵み、憐れみ、そして愛が提供されてきたことであろう！キリストの神性は違反者の罪を担うことを引き受けられた。この贖い代は堅固な土台の上にある。この誓約された平安イエス・キリストを受け入れる心のためのものである。そして信仰によってこのお方を受け入れるとき、わたしたちはキリストのうちに天国にあるすべての霊的な祝福をもって祝福されるのである。(原稿 114, 1897 年)

キリストはご自分の勝利、またご自分を信じるすべての人の勝利の戦利品である死の傷を受けられた。これらの御傷はイエス・キリストのうちにあるすべての忠実な信じる臣民に及ぼすサタンの力を撲滅した。キリストの苦難と死によって、アダムの罪のゆえに堕落した人類の知的存在者たちは、キリストを受け入れることと、このお方を信じる信仰を通して、不死と永遠の重い栄光の相続者となるために高められる。天のパラダイスの門はこの堕落した世界の住民に対して開かれている。キリストの義を信じる信仰を通して、神の律法に対する反逆者たちは、無限のお方をつかみ、永遠の命にあずかる者となることができるのである。(手紙 103, 1894 年)

「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」。これは世界の危機である。もしわたしが世のためのあがないの供え物となるならば、それは明るくされる。損なわれた神のみかたちが再

現され、回復されて、信じる聖徒の家族はついに天の家郷の住民となる。これはキリストの十字架の結果であり、世の回復である。(原稿 33, 1897 年)

わたしたちの贖い代はわたしたちの救い主によって支払われた。だれもサタンの奴隷になる必要はない。キリストはわたしたちの前に、わたしたちの聖なる模範として、また力強い助け主として立っておられる。わたしたちは計算できないほどの値をもって買われた。 だれが贖いの愛のいつくしみ深さと憐れみを測ることができよう。(原稿 76, 1903 年)

神はキリストに従う人々にご自分が地上に建てておられた王国、ご自身の御手で据えられた基礎についての真の理解を与えることによって、世をご自身に和解させることにおける贖罪の偉大な働きについて証された。

御父はあらゆる支配や権威にはるかにまさって、いっさいの誉れをご自分の右に座しておられるご自分の御子にお与えになった。このお方は十字架につけられたお方を受け入れ、このお方に栄光と誉れをもって冠することに大いなる喜びの歓喜を表現された。そしてこのお方が偉大な贖罪を受け入れることにおいて御子に示されたすべての恩寵はこのお方の民に示されるのである。自分の関心を愛のうちにキリストに結びつける者は、愛されるお方のうちに受け入れられる。彼らはキリストと共に苦しみ、そしてこのお方が栄光を受けられることは彼にとって大いなる関心事である。なぜなら、彼らはキリストのうちに受け入れられるからである。神はご自分の御子を愛されるように、彼らを愛される。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1899 年 8 月 16 日)

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By

4月 「罪のための神の治療」

人類の救い主

「しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」（イザヤ 53:5）

キリストの血は、罪の永遠の解毒剤である。（サインズ・オブ・タイムズ 1889年12月30日）

十字架上のキリストの死は、心から進んでの服従であった。そうでなければ何の功績もなかった。というのは、義は刑罰を受けることを望まれない罪なき方を、罪人の代わりとして罰することはないからである。（同上 1900 年 8 月 22 日）

イエスは……わたしたちが永遠の喜びにあずかることができるように、「悲しみの人」となられた。神は、恵みと真理に満ちたひとり子を、栄光に輝くみ国より罪にそこなわれ死とのろいに暗くとざされたこの世に下されたのである。神は、イエスが愛のふところを離れ、天使たちの讃美の声をあとにして、苦しみと恥、無礼、……はては死をさえ受けることをおゆるしになられた。（キリストへの道 7, 8）

十字架とそこに掲げられた犠牲を眺めなさい。……キリストは、ご自分の身にわたしたちの罪を負われた。その苦しみこそあなたの贖いの価なのである。（教会への証 6 巻 479）

わたしたちは苦い杯を飲むように割り当てられていた。その中にはわたしたちの罪が混じっていた。しかしわたしたちの愛する救い主は、その杯をわたしたちの唇よりとってご自身でお飲みになり、その代わりとして救いの……杯をわたしたちに提供しておられる。（同上 2 巻 73）

キリストが愛と同情のご自分の人性のかいなをもってわたしたちをいだき、引き上げてくださらなかったならば、わたしたちの苦悩がどれほどはるかに深く、わたしたちの悲痛がどれほどはるかに大きいものであるかは量りしれない。

わたしたちは希望のうちに喜ぶことができる。……わたしたちはこのお方〔わたしたちの弁護者〕の功績を通してゆるしと平和を得ている。彼はわたしたちの罪を洗い去り、ご自分の義をわたしたちに着せることができるために死なれた。そしてわたしたちを光の中に永遠に住むことのできる、天の社会にふさわしい者として下さった。（同上 5 巻 316, 317）

罪人の友

「世には友らしい見せかけの友がある。しかし、兄弟よりも頼もしい友もある。」(箴言 18:24)

イエスは罪人の友であり、このお方の心はいつも開かれ、いつも人の悲痛を思いやるお方である。このお方は天においても地においてもいっさいの力を持っておられる。(教会への証 3 巻 433)

わたしたちは人なるキリストのうちに、堕落した人間に対する無限の憐れみのみわざに従事しておられるとこしえの神を見る。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1904 年 1 月 27 日)

キリストは人間が天から力を受けてはじめて、けがれのない生涯が送られるのだということを示すために、この世においでになったのである。……

彼はみこころにかなう人々に「わたしについてきなさい」とお仰せになることができ、そう言われた者は、立ってこのお方に従った。その御声が発せられるとこの世の魅力は打ち破られ、貪欲と野心的な精神は彼らの心から逃げ去った。こうして人々は自由の身となり、救い主に従うために立ち上がった。……

彼は、どんな人間も無価値な者として見過ごしにすることなく、すべての人をいやそうとなさった。……彼は最も粗野な絶望的な人々にも、彼らがきずなくけがれなき者となり、神の子らしい品性に到達しうるとの確証を与えて、望みをおこさせようと努力なさった。

彼はしばしばサタンの自由にされて堕落し、そのわなからぬけ出る力のない人々にお会いになった。このように失望し、病気にかかり、あるいは誘惑され、堕落した人たちに、キリストは、非常にやさしいあわれみの言葉をおかけになったが、それは彼らが最も必要としまたよく理解できる言葉であった。彼は魂の敵と一騎打ちをしている人々にもお会いになったが、これらの人々には神の使者たちが味方となり、勝利させてもらえるから確かに勝てると保証なさって、忍耐するように励まされた。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 8, 9)

罪のないおかたは、罪人の弱さを憐れむ。……人間は罪人を憎みながら、一方では罪を愛する。キリストは罪を憎まれるが、罪人を愛される。これがキリストに従うすべての者の精神である。クリスチャンの愛はいつも、人を非難するのに遅く、悔い改めを認めるのに早く、人をゆるし、励まし、さまよっている者を聖潔の道に歩ませ、彼の足をそこにしっかりとどめるようにするのである。(各時代の希望中巻 249)

命の泉

「しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ 4:14)

多くの人々は、身体の病よりもはるかに魂の病で苦しんでいる。そして彼らは、命の泉であるキリストに来るまで癒しを見出すことはない。……キリストは、罪に病んでいる魂の、偉大ないやし主である。(健康への勧告 502)

もしわたしたちがイエスを手離すなら、つかまるものは何もない。……だれでも、渇望し、キリストに来て飲もうとする人々にとって、絶えず湧き上がる流れの永遠の恵みは、祝福となる。(手紙 2，1889 年)

この世の泉でかわきをいやそうとする者は、飲んでもすぐにまたかわくだけである。どこでも人々は満足していない。彼らは魂の必要を満たすものを求めている。その足りないところを満たすことの出来るおかたは一人しかない。世の必要、「万国の願うところのもの」はキリストである(ハガイ 2:7 文語訳)。キリストだけがお与えになれる神の恵みこそ、魂をきよめ、清新にし、活気づける生ける水である。……

キリストの愛を味わう者は絶えずもっと求める。だがそれ以外のものは何も求めない。彼には世の富も栄えも楽しみも、魅力がない。彼の心は、『もっとあなたを』とたえず叫びつづける。魂に必要をお示しになるおかたが、その飢えとかわきを満たそうと待っておられる。人間的な手段や人間に頼るときにみな失敗する。水槽は空になり、水たまりはかわく。だが贖い主は尽きない泉である。飲んでも飲んでも新しい水がいつでもわいている。キリストを内住させている人は、自分のうちに祝福の泉、永遠のいのちに至る水のわきあがる泉を持っている。この泉から、彼は自分のすべての必要を満たすのに十分な力と恵みをくむことができる。(各時代の希望上巻 221)

生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それは湧き上がってすべての人を元気づけ、今にも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。(同上 234)

わたしの導き手、また水先案内人

「わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう。」(詩篇 32:8)

クリスチャンの生涯には、危険に襲われ、義務の履行が困難なように思われるときがしばしばある。想像力が、前途には差し迫った滅亡を、そして背後には奴隷のくびきと死を描く。しかし神の御声ははっきりと前進せよとお命じになる。……信仰は困難のかなたを見つめ、見えないもの、しかも全能なるお方をさえとらえるから、困惑することはない。信仰はあらゆる危機においてキリストのみ手をしっかりにぎるものである。(福音宣伝者 262)

人生の海をわたるすべての船は、聖なる水先案内人に乗っていただく必要がある。ところが嵐が起こり暴風雨になると、多くの人々が自分たちの水先案内人を船外においやってしまい、その船を有限な人間の手にまかせたり、また自らその舵をとろうとする。その結果往々にして災害や難破が生じ、自分たちが危険な海にのまれたことに対し、その水先案内人を責めるのである。あなたがたは人間の保護に任せないでただ「主はわたしの助け主、わたしは主の御心を求め、その御心を行う者となる」と言いなさい。……エジプトの神々が頼って来る人々を救うことができなかったように、わたしたちが神聖な啓発なしに、人間から能力を受けることは不可能である。……自らの身を人間にゆだねてはならない。神聖な導き手であられるお方のもとで行動しなさい。

あなたがたはキリストによって選ばれたのである。あなたがたは小羊の尊い血によって贖われたのである。その血の功績を神の御前に嘆願しなさい。「わたしは創造によってあなたのものです。贖いによってあなたのものです。わたしは人間の権威と、兄弟たちの忠告を尊重します。しかし、それらのものに全的により頼むことはできません。神よ、わたしはあなたを必要とします。どうぞ教えて下さい。わたしは品性の聖なる基準を選び、あなたをわたしの人生のすべての計画の相談者、導き手とすることを誓いました。だから教えて下さい」と言いなさい。主の栄光を第一に考えるべきものとしなさい。……あなたのすべての行いが、主の御心を行うため、聖なる努力によって清められ、あなたの影響によって他人を禁じられた道に導くことがないようにしなさい。(クリスチャン教育の基礎 348, 349)

キリストの犠牲の血

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空虚な生活から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」(ペテロ第一 1:18, 19)

われわれの身代わりまた保証人としてキリストの上にわれわれ全部の者の不義が置かれた。律法による有罪の宣告からわれわれをあがなわんがために、キリストは罪人にかぞえられた。(各時代の希望下巻 274)

完全な憎しみをもって罪を憎みながらもキリストは全世界の罪をご自分の魂に集積された。罪のないお方が有罪の罰を受け、罪人の身代わりとしてご自身をおささげになった。すべての罪は世の贖い主の聖なる魂の上にのしかかった。アダムのすべてのむすこ娘の悪い思い、悪い言葉や悪い行為は、キリストご自身の上に報復を求めた。なぜなら、このお方は人間の身代わりとなられたからである。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1913 年 7 月 22 日)

荒野で、ゲッセマネの園で、また十字架上で、このお方を眺めなさい。一点の汚点もない神の御子が、罪の重荷を負い、また神と共におられた方が罪の結果である神と人との間の恐ろしい離別を経験された。そして「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マタイ 27:46) という苦しい叫びがそのくちびるをついて出されたのである。罪の重荷、罪の恐ろしさ、神から遮断されることなどが神の御子の心を砕いたのである。(キリストへの道 8)

ペテロは「あなたがたが……あがないだされたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく」と言っている (ペテロ第一 1:18)。だが、こうしたもので人間の救いが得られるものなら、「銀はわたしのもの、金もわたしのものである」と言われる神にはどんなに容易に行われたことであろう (ハガイ 2:8)。しかし、罪人は神の尊い血潮によらなければ救われることはできなかった。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 488)

神は、この世界に天の全資産を傾けること、すなわち、キリストにあって、全天をわたしたちに与えることによって、すべての人の意志、愛情、知能、魂を買い取られたのである。(キリストの実物教訓 300)

キリストの血によって義とされる

「わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。」（ローマ 5:9）

神はキリストをわたしたちの贖いの供え物として信じるように要求しておられる。キリストの血は罪に対する唯一の治療手段である。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1900 年 3 月 8 日）

あなたが罪深く無価値な者であるので、神はあなたを受け入れて下さらないだろうと恐れて不信の念を抱いたり心を苦しめることは、神の御心ではない。……あなたはこのように言うことができる。「わたしは自分が罪人であることを知っている。それゆえにわたしは救い主を必要とする。……わたしは救いを求める何の功績も善なるものもない。しかしわたしは神の前に世の罪を取り除く神の傷なき小羊の血をささげる。これのみがわたしの願いである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 7 月 4 日）

神は、仲保者であるイエス・キリストを通して、すなわちキリストが罪をお許しになるという方法を通して近づかれた。神は神の義や神聖さや真理の価をもって罪を許すことはできない。しかし神は罪を全くお許しになる。主イエス・キリストにあって、またキリストによって、許されない罪はない。これこそ罪人の唯一の望みであり、そして、もしここに真の信仰を置くなら、必ず全的で自由な許しを得るのである。すべての人々にとって入りやすい、ただ一つの道がある。この道を通して悔い改めた心を持つ者に豊かな許しが与えられ、最も暗い罪が許されるのである。この教訓は数千年も前に神の選民に教えられた。また真理の働きがすべての心にはっきり留められるように色々な象徴や場面を通して、繰り返されて来た。それはキリストの血が流されなかったなら、罪の許しはあり得ないということである。正義は人間の苦難を求めた。しかしキリストは神の苦難をお捧げになった。彼ご自身のためには何の苦しい贖いをも必要とされなかった。彼のすべての苦難は、わたしたちのためである。彼のすべての功績や神聖さは堕落した人類に示された贈り物として与えられた。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 912, 913）

キリストは自分たちの罪をご自身の上に、すなわち罪を負うお方の上に置くよう、わたしたちに求めておられる。……しかし、もしわたしたちがそれらを置こうとせず、自ら責任をとるならば、失われることになる。わたしたちは生ける岩なるキリストの上に落ちて砕かれるかもしれない。しかし、もしその岩がわたしたちの上に落ちてくるなら、わたしたちはこなみじんになるのである。（E.G. ﾎﾜｲﾄ原稿 21、1895 年）

十字架を通しての平和

「こういうわけで、今や、肉によらず霊によって歩く、キリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。」（ローマ 8:1 英語訳）

もし罪人にひとたび十字架を熱心に見させることができるならば、もし彼らが十字架につけられた救い主についての全貌を知り得たら、彼らは神の深いあわれみと自分の罪の深さとを認めるようになるであろう。（患難から栄光へ上巻 225）

聖霊によってわたしたちの良心が目覚めると、罪がいかにいまわしく、罪の力、罪のとが、また罪から来る災いがどんなものであるかが幾分わかってきて、罪を憎むようになる。罪が自分を神より引き離してしまい、自分は悪の力のどれいになっていることに気づくのである。のがれようともがけばもがくほど、自分の力なさを感じる。動機は不純で心は不潔で、自分の生活は全く利己心と罪ばかりであることを知り、なんとかしてゆるされきよめられて、自由になりたいと望むのである。神と調和し神に似るにはいったいなにをすればよいのであろうか。

あなたに必要なものは平和である。つまり天の許しと平和と愛を心にいただくことである。それは金で買うこともできなければ、知識で達することも、また知恵で手に入れることもできない。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのである。けれども神は、これを「金を出さずに、ただで」買い求めるべき賜物としてお与えになる（イザヤ 55:1）。……

神のもとに行き罪を洗い去って新しい心をあたえたまえと願いなさい。そして神が約束なさったのであるから、そうしてくださると信じなさい。これはイエスのご在世の時にお教えになった教訓であって、神がわたしたちにお約束になった賜物は得たりと信じるときに、わたしたちのものとなるのである。（キリストへの道 62，63）

罪人が十字架のもとで、彼を救うために死なれたおかたを見上げるときに、彼は満ち足りたよろこびを味わうのである。それは彼の罪が赦されたからである。信仰を持って十字架のもとにひざまずくとき、彼は人が到達できる最高の場所に到達しているのである。（患難から栄光へ上巻 226）

神が愛するひとり子をお与えになったことを感謝するとともに、彼の死が無駄にならないことを祈りなさい。聖霊は今日あなたを招いている。全心をささげて、イエスのもとに行こう。そうすれば主の祝福を自分のものとすることができるのである。み約束を読むとき、そのみ言葉は言い表すことのできない愛とあわれれみの表現であることを覚えよう。……しかり、あなたを助けることができるのはただ神のみであることを信じなさい。神はご自身の真のかたちを人間のうちに回復したいと望んでおられる。告白と悔い改めによって神に近づくならば、神はあわれみと許しをもってわたしたちに近づかれるのである。（キリストへの道 72）

栄光に満ちた身代わり

「キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖いだしてくださった。聖書に『木にかけられる者は、すべて呪われる』と書いてある。」（ガラテヤ 3:13）

罪に定めることは律法の本質であるが、それには許したり、贖ったりする力はない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1094）

キリストがおられなければ、律法そのものは、違反者に対して、刑罰と死にすぎなかった。律法に救う力はなく、すなわち違反者をその刑罰より保護する力はない。……

神の律法の違反により、人を救いながら、かつ律法の威厳と名誉を保つためには、キリストの死が不可欠となった。キリストは自ら、罪の刑罰を受けられた。彼は人間の悲哀に対してご自分のふところを開かれた。罪を知らないお方が、わたしたちのために、罪となられた。（E.G. ﾎﾜｲﾄ原稿 58．1900 年）

人々の罪は人類の身代わりであり保証人であるキリストの上に置かれた。彼は律法の呪いから人類を贖うため罪人と数えられた。……罪を負われる方であるキリストは、罪のために裁判による刑罰を忍び、人類の身代わりとして罪そのものとなられた。（生き残る人々 225）

その御目から見て非常に憎むべき罪が、このお方の上に積み上げられ、このお方はその重みの下にうめかれた。神の御子の絶望的な苦しみは非常に大きかったので、その肉体的な苦痛はほとんど感じられないほどであった。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1889 年 11 月 25 日）

神は御子をわたしたちの罪のために引き渡すことをおゆるしになる。神は父親として愛情をぬぎすて、一人の裁判官として、罪を負うお方に向かわれる。

ここにおいて、神の愛は、反逆した人類に対して最も驚くべき方法で表わされる。（牧師への証 246）

全世界の罪はイエスの上に置かれ、全世界が身代わりを信じる信仰を通して許されるために、神性はイエスの中にある人性の苦しみに最高の価値を与えた。最も罪深い者も、神はお許しにならないと恐れる必要はない。なぜなら神なる犠牲の功績によって律法の刑罰は許されるからである。キリストによって罪人は、神への忠誠に戻ることができる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1912 年 11 月 28 日）

完全な贖罪

「そればかりでなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。」（ローマ 5:11）

キリストの無限の能力は全世界の罪を負うことによって実証された。彼はささげる者と捧げ物、祭司と犠牲という二重の位置を占められた。（手紙192、1906年）

信じる者が、贖いの中に主の能力の広さ、長さ、高さ、深さを見ることができ、無限の価をもって買われた救いの完全さを見、心は感謝と賛美をもって満たされる。彼は主の栄光を鏡に映して見るように見、主の御霊によって同じみ姿に変えられる。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892年7月4日）

偉大な大祭司は唯一価値ある犠牲となられた。今や人間によって捧げられる香、苦行から魂を救うためと言われているミサなどは、神にとって何の関係もない。人が救いを得る手段にしようと望むすべての祭壇や犠牲、また人の伝統や発明は誤謬である。……キリストのみが罪を負われる方であり罪祭である。

祭司や役人たちは、キリストとキリストが死なれたその魂との間に立って罪ととがを許す救い主の特質を授ける権威はない。彼ら自身が罪人である。彼らはただの人間なのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7巻 913）

祈りと告白は、すべての者のために一度だけ聖所に入られたキリストにのみ捧げられるべきである。キリストは「もし、罪を犯すものがあれば、父の御許にはわたしたちの助け主、すなわち義なるイエス・キリストがおられる」と宣言なさる（ヨハネ第一 2:1）。彼は信仰によって彼の所に来るすべての者を極みまで救われるのである。（同上7巻 913）

人類の長兄キリストは永遠のみくらのそばに立って、救い主として彼を見あげるすべての人間をごらんになる。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 46）

わたしたちが負っている一番大きな重荷は罪の重荷である。……彼はわれらのとがを負われた。キリストはわれらの肩から荷をとって休ませてくださる。また心労や悲しみの荷も負ってくださる。キリストは、すべての思いわずらいをまかせるように招いておられる。彼はそのみ胸にわたしたちを抱いてくださるのである。（同上）

型は本体に会う

「ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって、近い者となったのである。」（エペソ 2:13）

神がご自分の特別な宝と呼ばれる神の民は、道徳律と礼典律の二つからなる律法を持つ特権があった。……

創造以来、道徳律は、神の聖なるご計画の根幹であり、神ご自身と同様に変えることのできないものであった。礼典律は人類の救いのためのキリストのご計画の目的に応えるものであった。犠牲と捧げ物の型としての制度は、罪人がこれらの奉仕を通して、最大の献げ物であられるキリストをはっきり知ることができるようにと定められたのであった。……礼典律は栄光に満ちたものであった。それは、人類の救いにおいて助けとなるために、御父との会議で、イエス・キリストによって備えられたものであった。型としての制度全体の取り決めはキリストに基づいている。アダムはエホバの律法を犯した罰として、苦しんでいる罪のない動物の中に予表されたキリストを見た。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1194, 1195）

犠牲と捧げ物の奉仕の必要は、キリストの死において型が本体に会ったとき、終わった。このお方のうちに、影は本体に及んだ。……神の律法はエホバの御座が続く限り、その高められた特性を保つ。この律法は神のご品性の現われである。……型と影、捧げ物と犠牲はキリストの十字架上での死の後いかなる効力もなくなった。しかし神の律法はキリストと共に十字架につけられたのではない。今日彼〔サタン〕は神の律法に関して人類を欺いている。（同上 1116）

十戒の律法は存続しており、また永遠にわたって存続するのである。……

神は、この世の生活において、また将来の永遠の生活において神の律法を破る特権を人類に与えるために、ご自分のひとり子を無限の犠牲として、この世にお与えになったのではない。（同上）

〔イエス〕は、人類を永遠の滅びより救うために、ご自分の尊い罪のない生涯をささげられたが、それは、ご自分を信じる信仰によって、彼らが神の御座の前に罪のない者として立つことができるためであった。（同上 7 巻 914）

贖いと許し

「わたしたちは、み子にあって神の豊かな恵みのゆえに、その血による贖い、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。」（エペソ 1:7）

キリストの恵みは罪人の側で功績や正当な資格もなく、彼を無償で義としてくださる。義認は、十分で完全な罪のゆるしである。罪人がキリストを信仰によって受け入れたその瞬間に彼はゆるされる。キリストの義が彼に着せられ、彼はもはや神のゆるしの恵みを疑わないのである。

信仰の中には、それをわたしたちの救い主とするものは何もない。信仰はわたしたちの罪を取り去ることができない。キリストは信じるすべての者に救いを得させる神の力である。義認はイエス・キリストの功績を通してくる。このお方は、罪人の贖罪の代価を支払われた。しかし、なおイエスが信じる者を義とすることができるのは、このお方の血を信じる信仰によってのみである。

罪人は義認の手段として、自分の良い行いに頼ることはできない。彼は自分の罪をすべて放棄し、自分の道を次々と照らす光に喜んで応じる地点に来なければならない。彼はキリストの血によってなされた無償にして十分な備えを、信仰によって単純につかむのである。彼はキリストを通して聖化、義、贖罪が自分のためになされるという神の約束を信じる。そして彼がイエスに従うとき、その光のなかを喜びつつ、その光を他人に分け与えながら、その光の中をへりくだって歩む。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1071）

悔い改める罪人に、「世の罪を取り除く、神の小羊」に目をそそがせなさい（ヨハネ 1:29）。……悲しみの人で、病を知っておられたイエスが、失われた者を救うために、軽蔑され、侮辱され、嘲笑され、町から町へ追われながら働かれ、ついに使命を達成されたのを見るとき、イエスがゲッセマネで大粒の血の汗を流し、十字架上で苦しみのうちに死なれたのを見るとき、―われわれがこうしたことを見るときに、自分を認めてもらいたいという欲求の叫びは、もはやなくなる。イエスを見上げて、われわれは、……主に心から奉仕することができさえすれば、何になってもよいし、あるいは何にもならなくてもよいのである。われわれは、主のためなら、イエスにならって十字架を負い、試練と恥と迫害に耐えることを喜ぶのである。（各時代の希望中巻 219）

自己義は不十分

「わたしは言っておく。あなた方の義が、律法学者やパリサイ人の義に勝っていなければ、決して天国に入ることはできない。」（マタイ 5:20）

キリストの時代に人々の心のうちにあった最大の欺瞞は、真理にただ同意することが義であるということだった。真理を理論的に知っているということだけでは魂を救うのに不十分であることが、人間のあらゆる経験を通して証明された。それは義の実が生じない。……パリサイ人はアブラハムの子であることを主張し、神のみ言葉を所有していることを誇った。しかしそうした特典も、彼らを利己主義、悪意、利得への貪欲、卑劣な偽善から守らなかった。……

同じ危険が今も存在している。多くの者はある神学上の教義に同意しているからというだけのことで、自分は当然クリスチャンだと思っている。だが彼らは、真理を実生活に持ちこまなかった。彼らは真理を信じてもいなければ、愛してもいなかった。したがって彼らは、真理のきよめを通して与えられる力と恩恵とを受けなかった。人は、真理に対する信仰を告白しても、もしその信仰によって、彼らが真実で、親切で、忍耐強く、寛大で、天来の心を持った者となるのでなければ、それは所有者にとって災いであり、また彼らの感化によって、それは世にとってもわざわいとなる。

キリストがお教えになった義とは、心と生活とを神のみ心のあらわれに一致させることである。罪深い人間は、神への信仰を持ち、神と生きた関係を持続することによってのみ義となることができる。そのとき真の信心によって思想が高められ、生活は高潔なものとなる。そのとき、宗教の外面的な形式が、クリスチャンの内面的な純潔と一致する。そのとき、神の奉仕に要求されている儀式は、偽善的なパリサイ人の儀式のような無意味なものとならない。（各時代の希望中巻 16 ～ 18）

救いは信じる者に対する神の無償の賜物であり、キリストのためだけにその人に与えられるものである。悩める魂はキリストを信じる信仰によって平安を見出し、その平安は彼の信仰と信頼に比例する。彼は自分の魂の救いを請うために良い行いを提供することはできない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1122）

彼の義で満たされる

［義に飢えかわいている人達は、幸いである。彼らは飽き足りるようになるであろう。」（マタイ 5:6）

義は聖であり、神に似ることである。そして「神は愛である」（ヨハネ第一 4:16）。義は神の律法に従うことである。なぜなら「あなたのすべての戒めは正しく（詩篇 119:72）、「愛は律法を完成するものである」からである（ローマ 13:10）。義は愛であり、そして愛は神の光であり、命である。神の義はキリストの中に具体化した。わたしたちはキリストを受けることによって義を受けるのである。

義が得られるのは、苦しい戦いやつらい労苦によってではなく、ささげものや犠牲によってでもない。それはそれを受けたいと飢えかわくすべてのものに無償で与えられるのである。「さあ、かわいている者は、みな水にきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ」（イザヤ 54:17 英語欽定訳）。「その名は、『主はわれわれの正義』ととなえられる」（エレミヤ 23:6）。

どんな人間の力も魂の飢えとかわきを満たすものを供給することはできない。しかしイエスは「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」（黙示録 3:20）、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない」と言われる（ヨハネ 6:35）。……

わたしたちが神を知れば知るほど、自分の品性の理想は高くなり、主のみかたちを反映したいとの願いはますます熱烈になる。魂が神に達しようとする時、神の要素と人間が結合されるのである。そして神を求める心ばわが魂はもだしてただ神をまつ。わが望みは神から来るからである」と言うようになるのである（詩篇 62:5）……

魂は「もっとあなたを」と叫びつづける。すると聖霊はいつも「さらに豊かに」（ローマ 5:9，10 英文訳）と答えて下さるのである。……キリストの中に「すべての満ちみちた徳を宿らせ」（コロサイ 1:19）、「そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされ」ることは父なる神の喜ばれるところであった。（コロサイ 2:10）（祝福の山 22 ～ 25）

キリストはゆるされる義認と清めの恵みの偉大な保管者である。

すべての人がこのお方の許に来て、その満ちみちているいっさいの徳を受けることができる。（ｾﾚｸﾃｯﾄ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 398）

義認における第一歩

「そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救い主として、ご自身の右に上げられたのである。」（使徒行伝5:31）

救いの働きの第一歩は、どのようなことから成り立っているかについて多くの者が混乱している。悔い改めは罪人がキリストに来ることができるためにしなければならない働きであると考えられている。彼らは神の恵みの祝福を受けるために、まず罪人自身がふさわしい者とならなければならないと考えている。砕け悔いくずおれた心だけが神に受け入れられるのであるから、悔い改めが許しに先だつのは許しに先だつのは事実であるが、罪人自身は悔い改めをもたらすことも、またキリストに行く備えもすることができない。……キリストに行く第一歩は神の御霊の引き寄せを通して始まるのであり、人々がこの引き寄せに応じるとき、彼は悔い改めることができるためにキリストに向かって前進するのである。……

大祭司やサドカイ人の前で、ペテロは、はっきりと悔い改めは神の賜物であることを述べた。キリストについて彼は次のように語っている。「そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救い主として、ご自身の右に上げられたのである」（使徒行伝5:31）。悔い改めはゆるしや義認と同様、神の賜物に他ならない。そしてキリストによって魂に与えられることを除いては決して経験できるものではない。もしわたしたちがキリストに引き寄せられるなら、それはこのお方の力と徳によるものである。悔悟の恵みはキリストを通して来るのであり、またこのお方から義認が来る。（ｾﾚｸﾃｯﾄ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻390, 391）

本当に悔い改めようと望んでいるのはだれであろうか、彼は何をしなければならないのだろうか。躊躇することなく彼はあるがままでイエスの許に来なくてはならない。彼はキリストのみ言葉が真実であることを信じ、み約束を信じてそれを願わなければならない。そうすれば彼は受けることができる。まじめな願いが人々を祈るようにとかり立てるとき、彼らの祈りが無駄になることはない。主はご自分のみ言葉を成就なさり、悔い改めに導くために聖霊をお与えになる。……彼〔悔い改めた罪人〕は祈りに信仰を混ぜ合わせ、ただ律法の教訓を信じるだけでなくこれに従う。……彼は神から心を引き離そうとするすべての習慣や交わりを放棄する。（同上393）

キリストの義は十分

「しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。」（ローマ3:21，22）

信仰による義認とは何であろうか。それは人間の栄光を塵に伏させ、人間が自分の力では到底なし得ないことを神ご自身が人間のためになされる神のわざである。人々が自分の無力を知るときキリストの義を着せられる用意ができる。（特別な証ｼﾘｰｽﾞA，9,62）

清い者として神に認められるほどの人は自分の善良さを誇ったりしない。使徒ペテロは、キリストの忠実なしもべとなって、天からの光と力を受ける大いなる光栄に浴した。彼は、キリストの教会の建設に活動的な役割を果たした。しかし、ペテロは自分の不名誉な恐るべき経験を忘れることができなかった。ペテロの罪は許された。しかしペテロは自分をつまずかせた品性の弱さに対しては、キリストの恵みによらなければ救われないことを知った。彼は、自分には何一つ誇り得るものがないことを認めた。

使徒にしても、預言者にしても、自分には罪がないと主張した者は一人もいない。神に最も近く生活した人、知りつつ罪を犯すよりはむしろ生命を犠牲にした人、また、神からの特別の光と力とを与えられた人は、みな、自分たちの性質の罪深い事を告白している。彼らは、肉に信頼をおかず、自分達の義を誇らず、キリストの義に絶対の信頼を置いた。キリストを眺める者もみな、そうなのである。（キリストの実物教訓 140）

キリストの義は、純潔な白い真珠のように欠陥も、しみも、罪もない。この義をわたしたちのものとすることができる。救いは、その血をもって買われ、計り知れないほどの宝と共に、高価な真珠である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899年8月8日）

キリストの義はわたしたちの側に何かの功績があるからではなく、神からの無償の賜物としてわたしたちに着せられるという考えは、尊い考えである。神と人類の敵は、この真理がはっきりと提示されることを喜ばない。なぜなら、もし民がこの真理を完全に受け入れるなら、自分の力が砕かれることを彼は知っているからである。（福音宣伝者 103，1893 年編集）

信仰により得られるこのお方の義

「しかし、働きはなくても、不信心な者を義とする方を信じる人は、その信仰が義と認められるのである。」（ローマ 4:5）

救いに至る信仰は、表面的な信仰ではない。単なる知識上の同意ではなく、それは、心に根ざした信仰であり、キリストを個人的な救い主として受け入れ、このお方によって神に来るすべての者をこのお方は極みまで救うことがおできになると確信することである。……

滅びつつある罪人はこのように言うことができる。「わたしは失われた罪人である。しかしキリストは、失われた者を探し救うためにおいでになった。このお方は『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである』と仰せになる。わたしは罪人である。そしてこのお方はわたしを救うために、カルバリーの十字架上で死なれた。わたしは救われないままでは一瞬もいたくない。主はわたしの義認のために死に、そしてよみがえられ、今わたしを救われる。わたしはこのお方が約束なさった許しを受け入れる。」……

悪によって傷つき、汚れた罪人のためになされた偉大な働きは、義認の働きである。真理を語るお方によって彼は義人と宣言される。主は、信じる者にキリストの義を着せ、彼を宇宙の前に義なる者と言われる。このお方は、彼の罪を罪人のための代表者であり、身代わりであり、また保証人であるイエスに移される。神は信じるすべての魂の罪をキリストの上に置かれる。「神はわたしたちの罪のために、罪を知らない方を罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためである」（コリント第二 5:21）。……

悔い改めと信仰を通して、わたしたちは罪が取り除かれ、わたしたちの義である主を見つめる。正しくない者のために正しい方イエスが苦しまれた。……

キリストの着せられる義を通してわたしたちが義とされたことによって、神はわたしたちを義なる者であると宣言し、義なる者として扱い、ご自分の愛する子としてご覧になる。キリストは、罪の力に抵抗して働かれるので、罪の多いところには恵みもさらに多いのである。「このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちはさらに彼により、今立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望を持って喜んでいる」（ローマ 5:1、2）。（ｾﾚｸﾃｯﾄ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 391 ～ 394）

神は、わたしたちがご自分の恵みによって欠けるところのない完全な者として、ただ主の出現を待ち望む者となるように十分な備えをしてくださったのである。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1887 年 12 月 13 日）

このお方の義で覆われる

「わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、義の上衣をまとわせて、花婿が冠をいただき、花嫁が宝玉をもって飾るようにされたからである。」（イザヤ 61:10）

キリストご自身の備えてくださった衣だけが、わたしたちを神のご臨在の前に立たせるのである。キリストはこの覆い、すなわち主ご自身の義の衣を、悔い改めて信ずる一人一人の魂に着せてくださるのである。「そこで、あなたに勧める……。あなたの裸の恥をさらさないために身に着けるように、白い衣を買いなさい」と主は言われる（黙示録 3:18）。

天の織機で織られたこの衣には、人間の創意による糸は一本も含まれていない。キリストは人性をおとりになって完全な品性を形成された。そしてこの品性をわたしたちに分け与えてくださるのである。「われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである」（イザヤ 64:6）。わたしたちが自分でなし得ることは、罪で汚れている。しかし神のみ子は「罪を取り除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない」（ヨハネ第一 3:5）。罪は「律法を犯すこと」であると定義されている（ヨハネ第一 3:4 英語欽定訳）。だがキリストは、律法のあらゆる要求に従順であられた。主はご自分について、「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と言われた（詩篇 40:8）。主はまた、この地上におられたとき弟子たちに向かって、「わたし（は）わたしの父のいましめを守った」と言われた（ヨハネ 15:10）。キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになさった。人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つとなり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。そして主がわたしたちをご覧になるとき、いちじくの葉の衣でも、裸と罪の醜さでもなく、エホバなる神の律法への完全な従順であるご自分の義の衣をお認めになる。（キリストの実物教訓 291,292）

神は、キリストを受け入れた……者を、アダムにある者ではなく、イエス・キリストにある者、すなわち神のむすこ娘としてご覧になる。（E.G. ホワイト原稿 32a,1894 年）

わたしたちは、キリストと神がわたしたちを何とお考えになるかと心配するべきではなく、神がわたしたちの身代わりであるキリストを何とお考えになるかを思うべきである。（世界総会冊子 1902 年 4 月 23 日）

神のみ旨をわきまえ知る

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって造りかえられ、何が神のみ旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」（ローマ 12:2）

キリストは、神のつくられた律法を人間が守ることができないというサタンの偽りをくじくために、この世においでになった。ご自身が人性をとって地上に来られ、従順な生涯によって、神は人間が守れない律法はおつくりにならなかったことを示された。キリストを自分の救い主として受け入れ、そのご品性にあずかる者は、律法のあらゆる戒めに従った生活によってキリストの模範に従うことができるのである。キリストの功績を通して、人は自分の従順によって、天で反逆することはないと信頼してもらえることを示すべきである。（E.G. ﾎﾜｲﾄ原稿 48、1893 年）

世の贖い主は、ご自分の神のようなすべての行為のうちに、「わたしは自分からは何事もすることができない」「これはわたしの父から授かった定めである」と宣言なさる（ヨハネ 5:30; 10:18）。「すべてわたしのすることは、天の父のみ心の現われである」。イエスの地上生涯の日々の歩みは、神の人間に対するご目的の実行そのものである。キリストの生涯と品性は、人が神性にあずかることによって、また日々の戦いを通して世に打ち勝つことによって到達できる完全な品性の現れであった。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1912 年 4 月 23 日）

青年たちはキリストの歩まれた道をいつも念頭におかなければならない。……このお方の生涯を研究することで、わたしたちは、神がキリストを通してご自分の子らのためにどれほど多くのことをなしておられるかを学ぶ。同時にまた、わたしたちの試練がどんなに大きくても、それらはキリストが耐え忍ばれたことには、はるかに及ばないことを学ぶ。（青年への使命 16）

キリストが歩かれたように歩く者は、忍耐深く柔和で、親切で謙遜な心のへりくだった者、キリストと共に働きその重荷を担う者、主が彼らを求められたように魂を求める者、これらの人々は主の喜びに入る。彼らは、キリストと共にこの自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。天は、サタンとサタンにつく悪天使たちが去ってできた空き場所が主によって贖われた者で満たされるために、勝利に歓喜する。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 949）

行いにより示される信仰

「しかし『ある人は信仰があり、また他の人には行いがある』と言う者があるであろう。それなら、行いのないあなたの信仰なるものを見せてほしい、そうしたら、わたしの行いによって信仰を見せてあげよう。」（ヤコブ 2:18）

魂の救いにおいて人間のなす部分は、イエス・キリストをだれか他の人のための救い主としてではなく、自分自身のための完全な救い主として信じることである。(E.G, ﾎﾜｲﾄ原稿 1a1890 年)

キリストは、信じる罪人が罪の歩みを続けることなく、ご自分の律法に対する不法から従順へと向きを変えるとき、ご自分の完全さと義を着せてくださる。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 5 月 23 日)

神が義であり、かつキリストの功績によって罪人を義とすることがおできになる一方で、だれ一人として知っている罪を行いながら、あるいは知っている義務を怠りながらキリストの義の衣で自分の魂を覆っていただくことはできない。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 11 月 4 日)

使徒ヤコブは、信仰による義認の主題を提示するにあたって生じるであろう危険を見た。そして彼は、本物の信仰は調和する行いが伴わなければあり得ないことを示そうと努めた。アブラハムの経験が提示された。「あなたがたが知っているとおり、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ」（ヤコブ 2:22）と彼は言う。このように、本物の信仰は信者のうちに本物の行いをなす。信仰と従順は堅実な価値ある経験をもたらす。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]7 巻 916)

信仰と行いは、わたしたちが不信という流れに逆らって川を押し進みたいのであれば、均等に使わなければならない二本のオールである。(福祉伝道 316)

愛によって働かず魂を清めない、いわゆる信仰は、どのような人をも義とすることはない。「これでわかるように」と使徒は言う。「人が義とされるのは行いによるのであって、信仰だけによるのではない」（ヤコブ 2:24）。アブラハムは神を信じた。彼が信じたことをわたしたちはどのように分かるであろうか。彼の行いが信仰の特質を証し、彼の信仰は義と認められた。今日、神の快い日光を閉め出し、信仰の成長を妨げつつ、わたしたちの周りに集まってくる暗黒を明るくするために、わたしたちにはアブラハムの信仰が必要である。わたしたちの信仰は多くの良い行いという実を結ぶべきである。なぜなら、行いのない信仰は死んだものだからである。(ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1898 年 5 月 19 日)

聖化、生涯の働き

「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためにわたし自身を聖別いたします。」（ヨハネ 17:19）

わたしたちが義とされる義は、着せられる義であり、わたしたちが聖化される義認は、与えられる義である。前者は天国に入るわたしたちの肩書き、後者は天国に入るわたしたちの資格である。（青年への使命 35）

義認と聖化の区別の細かい点を綿密に定義づけようとして多くの人々が過ちを犯している。この二つの言葉の定義において、彼らはしばしば独自の考えや推測を持ってくる。なぜ彼らは、信仰による義という命に関わる論題について、霊感よりも、細々と定義づけようとするのだろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1072）

神のみ前に深く悔いた罪人が、自分のためのキリストの贖罪を認め、この贖罪を今の生活とこれからの生活の唯一の望みとして受け入れるとき、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。(同上 1070）

きよめは、一瞬、一時間、一日だけの働きではなく、一生の働きである。それは感情の幸福な高揚によって得られるのではなく、絶えず罪に死に、絶えずキリストのために生きることの結果である。弱々しい、時たまの努力では、間違いを直すことも、品性を改善することもできない。長い、忍耐強い努力と、苦しい試練と、断固たる戦いによってのみわれわれは勝利することができる。（患難から栄光へ下巻 263,264）

聖化は、単なる理論や感情や言葉の形式ではなく、日常生活の中に入っている生きた活動的な原則である。これは、わたしたちの飲食、衣服の習慣が肉体、精神、道徳の健康を維持するものであることを要求する。それは、わたしたちが誤った習慣で自分の身体を汚れた捧げものにするのではなく、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として神に捧げることができるためである。（食事と食物への勧告 165）

聖書は、品性を改変する大きな能力である。……神のことばを学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。（キリストの実物教訓 74）

即座の聖化というようなものはない。真の聖化は命のある限り続く日々の行いである。（清められた生涯 10）

罪を憎む

「あなたは義を愛し、不法を憎まれた。それゆえに、神、あなたの神は、喜びの油を、あなたの友に注ぐよりも多く、あなたに注がれた。」（ヘブル 1:9）

聖書は、清めの働きが、漸進的なものであることをはっきりと示している。罪人が悔い改めて、贖罪の血によって神と和解するとき、キリスト者の生活ははじまったばかりである。（各時代の大争闘下巻 198）

キリストが魂に植えつけられる恵みは、……人の内にサタンに対する敵意を造り出す。この改心させる恵みと、新たにされる力がない限り、人々はサタンの捕虜として、いつもサタンの命令に従う僕の状態を続ける。しかし魂の内にある新しい原則は、今まで平和があったところに戦いを起こす。キリストがお与えになる力は、人を暴君や横領者に抵抗できるようにする。だれでも、罪を愛する代わりにそれを憎み、今まで左右されてきた激しい感情に抵抗するところを見られる者は、まったく上からの原則が働いていることを表しているのである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1913 年 12 月 2 日）

この世への服従とキリストとの調和を維持することはできない。世的な格言や、世的な習慣は心と生活から霊性を奪う。世に服従するということは、世の標準に合わせることによって、世に似ることを意味する。……だれ一人として世とイエス・キリストに同時に仕えることはできない。キリストと世との間には相いれない対立がある。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1895 年 1 月 22 日）

「わたしは世に死んだ、いま生きているのは神の御子を信じる信仰によって生きているのである。」と言える者がなんと少ないことか！……わたしたちの周りにいる人々がむなしくまた愚かに世の楽しみを求めているかもしれないが、その一方わたしたちの会話は、わたしたちが救い主にお会いすることを期待している天にある。魂は、ゆるしと平安、義と真の神聖さを求めて神に手をのべる。神と語り天にあるものを思うとき、魂はキリストに似たものに変えられる。（教会への証 2 巻 145）

神の御霊の聖なる感化の下で、あなたの心を和らげ溶かしていただこう。自分自身のことについてあまり語るべきではない。なぜならそれは、だれをも力づけないからである。……イエスのことを語り自分自身を捨てなさい。自己をキリストの中に隠そう。（同上 320, 321）

「もし罪を犯す者があれば……」

「もし罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。」（ヨハネ第一 2:1）

キリストの義を着せられるときに、わたしたちは罪に心を引かれなくなる。キリストが共に働かれるからである。わたしたちはまちがいをおかすこともあるが、しかし神のみ子に苦難を与えた罪を憎むのである。（青年への使命 338）

神と日々交わっている人が、もしその道からそれ、キリストをしっかり見つめている目を一瞬そらすとすれば、それは彼が故意に罪を犯したためではない。なぜなら、その人は自分の過ちを悟ったとき、また戻り、イエスにしっかり目を注ぐからである。そして彼が間違いを犯した事実は、神の心に対する敬愛を減ずるものではない。彼は自分が救い主と交わっていることを知っており、なんらかの事柄によって彼の誤りが非難されたとき、彼は不機嫌な歩みをしないで、また神に不平を言わないで、この誤りを勝利へ導く。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 5 月 12 日）

キリストのゆるしの愛を知り、ほんとうに神の子になりたいと望んでいながら、自分の品性が不完全で生活はあやまちが多いために、いったい自分の心が聖霊によって新たにされたかどうかと疑う人がいる。こうした場合に決して失望、落胆してはならない。わたしたちは幾たびとなく欠点やあやまちを悔いてイエスの足元に泣き伏すが、そのために失望してはならない。たとえ敵に破れても、神に捨てられ、拒まれたのではない。キリストは神の右に座して、わたしたちのために執り成しておられる。愛されたヨハネは「わたしの子たちよ。これらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとにはわたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」と言った。また「父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである」というキリストのみ言葉も忘れてはならない（ヨハネ 16:27）。神はあなたをご自分に立ち帰らせ、ご自身の純潔と神聖さをあなたの内に反映しようと望んでおられる。だからもしあなたが自分をこのお方に明け渡すなら、あなたのうちに良いわざを始められたお方は、イエス・キリストの日までその働きを続けてくださる。（キリストへの道 84 ～ 86）

すべての罪は……聖霊の力によって克服される。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 9 月 19 日）

品性の試金石

「彼は銀を吹き分けて清めるもののように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義を持って、ささげ物を主にささげる。」（マラキ3:3）

聖化を公言する多くの人々が、心に働く恵みの働きについて全く無知である。……彼らは理性や判断力をわきにやり、自分たちがいつか経験したことのある感情に基づいて聖化を主張し、完全に自分たちの感情に頼るのである。……

聖書の聖化は、強い感情によって成り立っているのではない。この点で多くの人々が過ちに導かれる。彼らは感情を自分の基準とする。自分の気分が高揚したり楽しかったりするとき、彼らは聖化されていると主張する。幸せな気持ちや、あるいは喜びのないことは、その人が聖化されているか、あるいはされていないかの証拠とはならない。……日々の誘惑と戦い、罪の傾向に打ち勝ち、心と生活の聖潔を求めている人は、その聖潔を自慢することはない。（清められた生涯9, 10）

夏、遠くの森の木々を眺めると、すべての木がきれいな緑で覆われているため、常緑樹と他の木々の見分けがつかない。しかし冬が近づいて、霜がそれらを包み込み、美しい葉を持つ他の木々を裸にすると、常緑樹はすぐに見分けがつく。このように謙遜な歩みを続け、自己を信頼しないでキリストのみ手におののきつつすがりついている者もそれと同じである。自己を信頼し品性が完全であると思っている人々は、試練の嵐に会うと偽りの義の衣を失ってしまう。心から神を愛し、畏れる真の義人は、順境にあっても逆境にあっても同じようにキリストの義の衣を着ている。（同上11）

品性のうちにある愛と信仰という純金を表すには、テストする期間を要する。試みや困惑が教会を襲うと、そのときキリストに真に従う者の不動の熱心さと、温かい愛情が明らかになる。（同上12）

完全へのはしご

「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召された方を知る知識によるのである。」（ペテロ第二 1:3）

イエスは天に至るはしごであり、……神は、わたしたちにこのはしごを上るようにと召しておられる。しかし、わたしたちが地上の宝を背負いながら、そのようにすることはできない。わたしたちが、個人的な利益や都合を神の事柄の前に置くとき、間違いを犯している。地上の財産や境遇には、何の救いもない。人は世の富を持っているからといって神の御目に高められ、美徳を所有している者とは見なされない。もし、わたしたちがはしごを登るほんとうの経験を得たいなら、……あらゆる障害物を後にしなければならない。はしごを登ろうとする者は、はしごの一段一段すべてにしっかりと足をかけなければならない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 1095）

わたしたちは、キリストを見つつ、キリストによりすがりながら、一歩一歩キリストの高さにまで登ることによって救われる。こうしてキリストはわたしたちの知恵となり義と聖と贖いとなられるのである。信仰、徳、知識、節制、忍耐、信心、兄弟愛、愛が、はしごの一段一段である。（教会への証 6 巻 147）

勇気、不屈の精神、信仰、救うための神の力を信じる絶対的な信頼が必要である。これらの天の恵みは、一瞬に来るものではなく、長年の経験によって得られるのである。しかし、すべてまじめに熱心に求める者は、神性にあずかる者となる。その魂は、人知を超えるその愛の完全さを知ろうと、強い切望に満たされる。そして神聖な生涯を歩むとき、人を高め、高尚にする神の御言の真理をさらによく把握するようになり、ついに、ながめることによって彼は変えられ、贖い主のみ姿を反映することができるようになる。（サザン・ウォッチマン 1906 年 9 月 25 日）

神の子よ、天使たちはあなたが発達させる品性を見守っており、あなたの言葉と行いを量っている。それゆえあなたの道に注意を払い、……神の愛の中にいることを証しなさい。（同上）

神を最高に愛し、隣人を自分と同じように愛することは、本物の聖化である。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1890 年 2 月 24 日）

聖霊における喜びと平和

「神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。」（ローマ14:17）

み約束は、「わたしは、あなたがたに新しい心を与えよう。」「わたしは、わたしの霊を、あなたがたの中に注ぐ」である。この備えがわたしたちのために、キリストの義の功績によってなされている。「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼である」（イザヤ 32:17）。これらのみ言葉によって語られた変化を経験する者は、不安や気がかりがすべて取り除かれ、キリストにあって自分の魂に休息を見出す。このお方の功績、その義が、信じる魂に着せられ、信じる者は聖霊による内なる平安と喜びを持つのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1893 年5月18日）

主は、神の子らがみな幸福、平和、従順であるよう望んでおられる。……

利己的な動機から義務の道をはずれて求めた幸福は、均整がとれていないため変わりやすく、一時的なものである。それが過ぎ去ると、心は寂しさと悲しみでみたされる。けれども神に仕えることには喜びと満足がある。クリスチャンは、疑わしい道を歩んだり悲しみ失望の中に捨てられることはない。たとえ、この世に楽しみがなくても、なお来るべき世を待ち望んで喜ぶことができる。

しかし、この世にあっても、クリスチャンはキリストと交わる喜びがある。また、キリストの愛の光をもち、共におられるこのお方から絶えざる慰めを得ることができる。人生の歩みの一歩一歩がわたしたちをイエスに近づけ、イエスの愛をより深く経験し、一歩だけ祝福された平和な家庭に近づけるのである。（キリストへの道 174,175）

信じることの中に平安があり、聖霊における喜びがある。信仰は平安をもたらし、神への信頼は喜びをもたらす。信じなさい、信じなさい！わたしの魂は信じなさいと言う。神のうちに安んじなさい。神は、あなたがご自分に委ねたものを守ることがおできになる。このお方は、あなたを愛して下さったお方を通して、あなたを助けて勝ち得て余りがある者として下さる。（教会への証 2 巻 319, 320）

信仰とは何か

「さて、信仰とは、望んでいる事柄を確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」（ヘブル 11:1）

信仰を働かせるために、感情を興奮の頂点に至らせることは必要でなく、またわたしたちの願いを主に聞いていただくために、騒々しく叫んだり、身体的な行動をする必要もない。

サタンがしばしば嘆願者の心に疑いや誘惑との戦いを起こし、そのために思わず強い叫びや涙がもれることがあるのは事実である。また、ときに悔い改める者の罪の意識があまりに強く、罪相応の悔い改めが非常な苦悩を経験させ、叫びやうめきにはけ口を求めることがあるのもまた事実であり、同情深い救い主はそれをあわれみをもって聞かれる。しかしイエスは、信仰のある静かな祈りに答えを怠るようなことはなさらない。だれでも単純に神のみ言葉を受け取り、自らを救い主と結びつけるために、手を差しのべる者は神の祝福を受ける。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1877 年 5 月 31 日）

信仰は感情ではない。……真の信仰は、憶測とはいかなる関係もない。真の信仰を持っている者だけが憶測に対して安全である。なぜなら憶測は信仰におけるサタンの偽造品だからである。

信仰は神のみ約束を求め、従順の実を実らせる。憶測も同じく約束を求めるが、サタンがしたように、それを違反の言い訳をするために用いる。信仰はわたしたちの最初の両親を神の愛に信頼し、その戒めに従うように導いていた。憶測は、神の大いなる愛は、自分たちの罪の結果から自分たちを救うであろうと信じて、彼らに神の律法を犯させたのである。恵みが与えられる条件に応じないで、天の恵みを求めるのは信仰ではない。本物の信仰は、聖書の約束と規則に基を置いている。（福音宣伝者 260）

信仰に固く立つということは、感情や自己の望みを捨てて、主と共にへりくだった歩みをし、神の約束を全部いただき、あらゆる機会にその約束を応用し、神があなたの心と生活の中でご自身の計画とご目的を果たされることを信じることである。(クリスチャン教育の基礎 341，342)

信仰はみ約束から来る

「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」(ローマ 10:17)

神のみことばの真理は、人間の持っている大きな必要を満たすもので、信仰によって魂を改心させるものである。これは、あまりにも純粋で崇高な原則であるから、日常生活にあてはめるには、清く、神聖すぎるものであると考えてはならない。こうした真理は、天にまで達し、永遠に及ぶものでありながら、その生きた感化は、人間経験の中に織り込まれなければならないものである。それは人生の大事、小事を問わず、どんなことの中にもしみ通っていかなければならない。(キリストの実物教訓 74)

わたしたちは、キリストのご品性を表すことからどれほど遠くかけ離れていることであろうか。しかし、わたしたちは、生きた信仰を通して、その功績をしっかりとつかみ、このお方をわたしたちの救い主と主張しなければならない。このお方はわたしたちを救うためにカルバリーで死なれた。一人びとりがこの世界には自分以外にだれもいないかのように、そのことを神と自分の魂との間の個人的な働きとしなければならない。わたしたちが個人的な信仰を働かせるとき、わたしたちの心は鉄のくさびのように冷たいのではなく、詩篇記者が「その罪がおおい消される……ものは幸いである」(詩篇 32:1) と言った意味を認めることがきる (詩篇 32:1)。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889 年 3 月 12 日)

神はご自分の御言の現実性、すなわちご自分のみ約束の真実性を自分で試すようにまねいておられる。神はわたしたちに「主の恵みふかきことを味わい知れ」とお命じになる (詩篇 34:8)。……このお方は「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」と宣言なさる (ヨハネ 16:24)。そのみ約束は成就する。それらが失望させることはなかったし、これからも決してないのである。(キリストへの道 155)

わたしたちの救い主は、あなたがたを幸福にすることができるために、あなたがたがご自身と近い関係を保つように望んでおられる。キリストが祝福をわたしたちに注がれるとき、わたしたちは感謝をささげ、主のみ名に感謝と賛美をささげるべきである。しかしあなたは、「このお方がわたしの救い主であることを、知ることさえできたら!」と言う。そうであればあなたはどのような種類の証拠を望んでいるのか。あなたは、キリストがあなたのものであることを証明する特別な感情あるいは感動を望んでいるのであろうか。それは神のみ約束への純粋な信仰よりも信頼できるであろうか。神の祝福に満ちた約束をつかみ、それらを自分のものとし、あなたの重みをことごとくそれらに負わせるほうが、はるかに良くはないであろうか。これが信仰である。(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 7 月 29 日)

信仰の良き戦い

「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠の命を獲得しなさい。あなたがたは、そのために召され、多くの人の前で、りっぱな証をしたのである。」(テモテ第一 6:12)

使徒パウロによって、熱心な勧告がテモテに与えられた。それは、彼が自分の義務を遂行するのを怠らないようにするためであり、今日の青年にも適用すべきものである。「あなたは年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい」(テモテ第一 4:12)。あなたは絶えずからみつく罪と戦い、それに勝利しなければならない。先天的、もしくは後天的な好ましくない性質は、個々に取り上げて、義の偉大な法則と比較し、神の御言から反射した光の中でキリストの力によって強く抵抗し、打ち勝たなければならない。……

毎日、毎時間、自己否定と聖化の精力的な作用が内部に進行していなければならない。そのとき、外部の行動は、信仰によって心の中にイエスが住んでおられることを証する。聖化は知識への魂の道を閉ざすものではなく、かえって思いを広げ、隠れた宝を探すように真理を探求する心を起こさせる。そして神の御心についての知識は聖化の働きを前進させる。天国がある。ああ、そこへ着くために、わたしたちはどれほど熱心に努力しなければならないことであろうか。わたしは、あなたがたが、イエスを救い主として信じるよう……訴える。あなたが心からイエスに来るとき、このお方はご自分の恵みによって、あなたを助ける用意ができていることを信じなさい。あなたは信仰の良き戦いを戦わなければならない。命の冠のための戦士でなければならない。なぜならサタンの支配があなたの上にあるからである。もし、あなたがサタンから離れなければ、あなたは麻痺して滅ぼされる。敵はあなたの前後左右にいるので、あなたは敵を足の下に踏みつけなければならない。勝利した者に冠があるのだから、奮闘しなさい。(クリスチャン教育の基礎 136,137)

まもなくわたしたちはわたしたちの王の戴冠式を目撃する。キリストと共に隠れた生涯を送った人々や、この地上で信仰の良き戦いを戦った人々は、神の王国において贖い主の栄光と共に輝き出る。(教会への証 9 巻 287)

義人は信仰によって生きる

「このように、あなたがたは、主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。」(コロサイ 2:6)

恵みに成長することも、わたしたちの喜びも人のために役だつこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっている。恵みに成長するのは、毎日、毎時、このお方と交わり、このお方の内に宿ることによる。キリストはわたしたちの信仰の創始者であり完成者である。キリストは、始めであり、終わりであり、つねにおられるのである。であるからわたしたちの旅路の初めと終わりばかりでなくその道すがら一歩一歩、キリストにいていただかねばならない。……

「いったいどうすれば、キリストの内に宿ることができるのでしょうか」と尋ねる人があるが、それは最初に主を受け入れたのと同じようにしたらよいのである。「あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい」(コロサイ 2:6)。また「わが義人は信仰によって生きる」(ヘブル 10:38) とある。あなたは、自分を神にささげ、全く神のものとなり、神に仕え神に従い、キリストをあなたの救い主として受け入れたのである。あなたは自分では自分の罪をあがなうことも、心を変えることもできない。しかし神に自分をささげ、神がこれをすべてキリストのゆえになさったと信じたのである。信仰によってキリストのものとなったのであるから、また、信仰によってキリストのうちに成長するのである。これは、こちらからも与え、また、神からも受けることである。自分の心も意志も奉仕もすべてを神にささげ、神のご要求にことごとく従わねばならない。そして、服従する力を受けるにはあらゆる祝福に満ち溢れておられる。キリストを心に宿し、キリストをあなたの力、義、また永遠の助けとして受けなければならない。

毎朝神におのれをささげ、これを最初の務めとして次のように祈りなさい。「主よしもべを全くあなたのものとしてお受入れ下さい。わたしのすべての計画をあなたのみ前に置きます。どうか、しもべをきょうもご用のためにお用いください。どうか、わたしと共にいましたもうて、すべてのことをあなたにあってなさせて下さい」と。これは毎日のことである。毎朝、その日一日、神に献身して、すべての計画をこのお方に任せ、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのである。こうして、日ごとに生涯を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのである。(キリストへの道 92 ～ 94)

信仰は勝利

「なぜなら、すべて神から生まれた者は、世に勝つからである。そしてわたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第一 5:4)

キリスト者の生活は、信仰と、勝利と、神にある喜びとの生活でなければならない。「なぜなら、すべて神から生まれた者は、世に勝つからである。そしてわたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である」(ヨハネ第一 5:4)。神のしもべネヘミヤが、「主を喜ぶことはあなたがたの力です」と言ったのは至言である(ネヘミヤ 8:10)。パウロも言っている。「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。」「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて、感謝しなさい」(ピリピ 4:4、テサロニケ第一 5:16 ～ 18)。(各時代の大争闘下巻 208)

神はご自分の僕が必要とするすべての力を与えようと望み、また与えることがおできになる。そして彼らのいろいろな必要に応じて知恵を与えてくださる。このお方は、ご自分に信頼する者の、最高の希望を満たして余りあるお方である。

イエスは、わたしたちをご自分に従うように召されておきながら、後で見捨てるようなことはなさらない。もしわたしたちが自分の生涯をこのお方の奉仕に捧げるなら、神が備えをしておられない立場に、決してわたしたちは置かれることはない。わたしたちの立場が何であろうと、わたしたちの道を導いて下さる案内者がおられる。わたしたちの困惑がどんなであろうと、確かな相談者がおられる。わたしたちの悲しみ、不幸、孤独がどんなものであろうとわたしたちには同情深い友がおられる。わたしたちが知らずに過ちを犯していても、キリストは、わたしたちをお捨てにならない。「彼は乏しい者をその呼ばわるときに救い、貧しい者と、助けなき者とを救う」(詩篇 72:12)。(福音宣伝者 262,263)

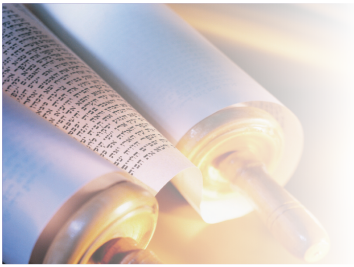
信仰は……重荷や苦労のある現世から、今わたしたちを悩ましているあらゆる事柄が明らかにされる来世を、見つめることができるようにする。信仰は、イエスがわたしたちの仲保者として神の右に立っておられるのを見る。信仰は、キリストが主を愛する者のために備えておられる住まいを見つめる。信仰は勝利者のために備えられている衣と冠を見、贖われた者の歌を聞く。(同上 259,260)

わたしたちは親切な天の御父にもっと多くのものを求めることができる。……わたしたちは、神を信じ、神に信頼し、それによってもっとこのお方の御名に栄光を帰すことができる。(教会への証 2 巻 319)

神を信じて愛し、仕える者の力は日々新たにされる。(福音宣伝者 262)

研究 12

最後の出来事



最後の試練と分離

Final test and separation

今回は、「最後の試練（テスト）と分離」について啓示されたみ言葉を破究してみましょう。地上に住むすべての人に臨むこの日について聖書は次のように述べています。

「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう」（黙示録 13:8 英文訳）。「その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。これらの起ころうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」（ルカ 21：35, 36）。

「試みの時が来ると、神のみ言葉を自分の人生の尺度としてきた人たちが、はっきりわかるであろう。夏には常緑樹と他の木々との間に著しい違いがないが、冬のこがらしが吹く時になると、常緑樹は変わらないが、他の木々は葉が落ちて裸になる。そのように、現在は心に偽りのある信者と真のキリスト者との見分けがつかないが、しかしその違いが明らかになる日が、今まさにわれわれに臨もうとしている。反対が起こり、頑迷と偏狭が再び吹きまくり、迫害の火が燃やされるときに、二心の偽善者たちは動揺して信仰を放棄するであろう。しかし真のキリスト者は岩のように堅く立ち、繁栄の日よりも信仰が強くなり、望みはいっそう明るくなるであろう」（各時代の大争闘下巻 369, 370）。

わたしたちは上記の証から、最後のテストの目的を理解することができます。すなわち、これは真のキリスト者と心に偽りのある信者、すなわち二心の偽善者たちとを区別するための手段だということです。わたしたちは教会の歴史を通して、真のキリスト者と偽のキリスト者とを区別するために、過去何度となくテストがあったことを知っています。ですから、預言の霊はわたしたちの前に迫っているテス

トの時を、『最後のテスト』という言葉で表現しました。そして、最後のテストがあるなら最後の分離もあるのも当然です。

上記の証でわたしたちが注意すべきなのは、「常緑樹」もしくは「神のみ言葉を自分の人生の尺度としてきた人たち」という言葉です。人間のかたちを取ってこの地においでになったイエス・キリストは、十字架の苦痛を目前にして、次のように言われました。「もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであろう」(ルカ 23:31)。なぜならば、「しかし、わたしは神の家にある緑のオリブの木のようだ。わたしは世々かぎりなく神のいつくしみを頼む」と言われたからです (詩篇 52:8)。

ですから、今日霊的な「常緑樹」、もしくは「緑のオリブの木」は「絶えず目をさまして祈っている」人たちであることがわかります (ルカ 21:36)。では、このような人たちにどんなテストがやって来るのでしょうか?

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである」(黙示録 13:15 ～ 17)。

「サタンとの最後の大争闘において、神の忠実な者は、この世の一切の支持がたたれるのを見る。彼らは地上の権力に従うために神の律法を破ろうとしないので、売ることも買うことも禁じられる。ついには、彼らを殺せとの布告が出される〔黙示録 13:11 ～ 17 参照〕」(各時代の希望上巻 132, 133)。

わたしたちは古代イスラエルの歴史の中で、彼らが「約束の地」カナンにはいる直前に直面したテストを民数記 25 章の中で読むことができます。このことについて黙示録には「しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせている。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせている」と記されています (黙示録 2:20)〔イゼベルは淫婦 : 黙示録 2:20 ～ 22, 17:1 ～ 6 参照〕。

つまり、最後の試練が迫って来るとき、神の律法に従うことを拒んで獣の像を拝み、売買することを許可してもらうことによって生きようとするすべての者は、「偶

像にささげたもの」を食べようとする者であるということが、はっきりわかります。わたしたちはダニエル書 3 章の中で神の律法に忠実に従ったヘブルの青年たちの経験を読みます。そして、『歴史は繰り返される』という言葉を思い起こします（ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄｺﾒﾝﾄ]7 巻 976）。王の脅迫と誘惑の言葉を聞きながら、王に答えた彼らの言葉は、この終りの時代に「最後のテスト（Final Test）」に直面する神の民の心に深く留まらなければなりません。シャデラク、メシャクおよびアベデネゴは王に答えて言いました。「ネブカデネザルよ、この事について、お答えする必要はありません。もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません」（ダニエル 3:16 ～ 18）。

親愛なる皆様！なんと驚くべき確信であり、証言なのでしょう！神との密接な関係、単純で確固たる信頼、確実ではっきりしたキリスト者の態度が見られます。神はこの終りの時代に住んでいるご自分の民がこのような信仰の持ち主となるように望んでおられます。

「ドラの平野でのヘブルの青年たちの経験から学ぶべき教訓は、実に重大である。…特に第四条の安息日を清くする者に対しては、人々の激しい怒りが燃やされる。そしてついに、世界的法令が発布されて、これらの人々を死に価する者として告発するのである。神の民はこれらの悩みの時を前にして、揺らぐことのない信仰を持たなければならない。神の民は、ただ神だけが礼拝の対象であること、そしていかに重大なことであり、それが生命そのものにかかわるものであっても、彼らを偽りの礼拝に少しでも妥協させることはできないことを明らかにしなければならない」（国と指導者下巻 120, 121）。

この事実を世の人々は知っているか？

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」（マタイ 24:14）。「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られ

た、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、…そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（黙示録 14:9 ～ 12 英文訳）〔黙示録 13:8 参照〕。

「しかし、真理が人の心と良心に明らかに示され、そしてそれが拒否された上でなければ、だれひとりとして神の怒りを受けることはない。現代に対する特別の真理を聞く機会がこれまでになかった者が、大ぜいいる。第四条の戒めに従うべき真の意味が、まだ彼らに示されていない。すべての人の心を見ぬき、あらゆる動機を探られるおかたは、真理を知りたいと願っている者をだれ一人として、争闘の論点について欺かれるままにしてはおかれない。法令は、盲目的に人々に強制されることはない。すべての者は、賢明な決断を下すに十分なだけの光が与えられるのである。

安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練（テスト）が人々に臨むとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。第四条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである」（各時代の大争闘下巻 374, 375）。

「われわれに、まさに試練（テスト）の時が来ている。第三天使の大いなる叫びは、罪を許される贖い主、キリストの義の啓示のうちに、すでに開始しているからである」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 11 月 22 日）。〔第三天使のメッセージは 1844 年に開始し、第三天使の大いなる叫びは 1888 年すでに開始している〕。

最後の試練（Final Test）はいつ起こるのか？

「獣の像は恵みの期間が終わる前に形成されることを主はわたしにはっきり示された。なぜなら、それは神の民にとって、永遠の運命を決定する大いなる試練（テスト）となるからである」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 80）。

「人類の恵みの時の終りに、最後の大きなテスト（Final Test）が来るのであ

るが、その時では、魂の必要を満たすのには遅すぎる」（キリストの実物教訓389）。

その時（Final Test）、何が起こるのでしょうか？最後の分離（Final Separation）が起こります。

「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。わたしにむかって、『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」（マタイ 7:16 ～ 21）。

わたしたちが覚えておくべき事は、自然の確かな法則、すなわち、ぶどうの木はぶどうの実を、悪い木は悪い実を結ぶということです。しかし、今日、自然界を知らない人々は、茨からぶどうを得ようと奇跡を待ち望んでいます。また、彼らの霊的状態も同じです。良い木は「神の律法」であり（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻211）、良い実は「神のあらゆる律法に対する服従の中に明らかにされているキリストの義」（牧師への証 92）、すなわち神の律法への完全な従順であることをはっきり理解しなければなりません。また、「天にいますわが父の御旨」とは（マタイ 7:21）、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」という言葉であることを知らなければなりません（マタイ 5:48）。

ですから、最後の分離は、獣の刻印（偽の安息日の遵守）が強制されるとき、これを受ける者と、真の安息日（神の律法）を守る者との間の分離であることがはっきりわかります。預言の霊は次のように語りました。

「すべての人に試練（テスト）がやって来る時は、あまり遠くはない。われわれは偽の安息日を守るように強制される。それは、神の戒めと人間の戒めとの間の争いである。一歩一歩世俗の要求に屈伏して、世俗の習慣に妥協した人々は、その時、嘲笑、侮辱、投獄と死の脅威にさらされるよりは、地上の権力に従ってしまうのである。その時、金が不純物から分離される。真の敬神深さが、ただうわべだけの見せかけからはっきりと区別される。われわれが輝かしさを賛美した多くの星が、その時暗黒の中に消えていく。聖所の飾りのようなふうをしてはい

たが、キリストの義をまとっていなかった人々は、その時裸の恥をさらす」（国と指導者上巻 156）。

「わたしは、神が、名目的再臨信徒たちと、堕落した諸教会の中に、心の正しい子らを持っておられるのを見た。そして、牧師や信者たちが、災害が、下される前に、これらの教会から呼び出されて、喜んで真理を受け入れることをわたしは見た。サタンは、この事を知っている。第三天使の大いなる叫びが上がる前に、サタンは、これらの宗教団体に、興奮を起こさせ、真理を拒んだ人々に、神が彼らと共におられると思わせるのである。サタンは、心の正しい人々を欺いて、神がなお教会のために働いておられると彼らに思わせたいと願っている。しかし、光が輝き出る。そして、心の正しい人は皆、堕落した諸教会を去り、残りの民に加わるのである」（初代文集 424, 425）。

ですから、今日、第七日目の安息日を守ると公言しながら、安息日の神聖さを理解しないで、また知りながら故意に、あるいは様々な理由をつけて第四条を犯す者は、ついに安息日を守る者から分離させられることがはっきりわかります。悪い木が良い実を結ぶことはできないということを、はっきり理解しなければなりません。

わたしたちの準備

「神の戒めのすべてに従おうと努力する者は、反対と嘲笑に会うであろう。彼らは神のうちにあるときにのみ立つことができる。彼らが目の前にある試練に耐えるためには、み言葉の中に示されている神のみ心を理解しなければならない。彼らは、神のご品性、統治、御目的について正しい理解を持ち、それに従って行動する時にのみ、神をあがめることができる。聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の大争闘に耐え抜くことはできない。わたしは人に従うより神に従うべきかという鋭い質問が、一人一人に臨むであろう。その決定の時は今目の前に迫っている。われわれの足は、変わることのない神のみ言葉という岩の上に、しっかり立っているだろうか。われわれは、神の戒めとイエスの信仰をとりでとして、堅く立つ用意ができているだろうか」（各時代の大争闘下巻 359）。

(48 ページの続き)

ちだけで壁のうえを歩くことができるくらいしっかりしました。

これはわたしたちにキリストわれらの義（ぎ）のメッセージを思いおこさせます。子どもとしては、ときどき、よい子であることがむずかしい時があります。わたしたちはただじゅうぶんに「高く」ないのです。わたしたちは自分でより高い生活を送るほど十分強くないのです。わたしたちは、自分たちを引き上げる力をいただくために天のお父様の助（たす）けが必要（ひつよう）です。それがまさに、イエス様がわたしたちの罪の刑罰（けいばつ）を受けるためにこの地上に来ることによって、わたしたちのためになしてくださったことなのです。ですから、わたしたちが自分のためのこのお方の犠牲（ぎせい）を受（う）けいれたあとでさえ、わたしたちは倒（たお）れることなくまっすぐに歩みつづけるために、なおこのお方の助けを必要としています。イエスの助けのみ手はまた、わたしたちのためにそれもしてくださいます―わたしたちを動（うご）かないように守（まも）ってくださるのです。このお方はわたしたちが生涯（しょうがい）を通じて、自分ではできなかったもっと高いレベルの従順（じゅうじゅん）のうちに歩めるようにしてくださいます。ですから、わたしたちがキリストのうちに成長（せいちょう）するとき、霊的（れいてき）に強（つよ）くなって、このお方の力（ちから）を通して、悩（なや）みの時でさえも、このお方のようにきよい生涯を送れるようになるのです。

「主のほかに、だれが神か、われらの神のほか、だれが岩（いわ）であるか。この神こそわたしの堅固（けんご）な避（さ）け所（どころ）であり、わたしの道を安全にされた。わたしの足（あし）をめじかの足のようにして、わたしを高い所に安全に立たせ」（サムエル記下 22:32 ～ 34）。

ですから、わたしたちは「そして、わたしたちの主また救主（すくいぬし）イエス・キリストの恵（めぐ）みと知識（ちしき）とにおいて、ますます豊（ゆた）かにな」るよう励（はげ）まされます。」「栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アァメン」（ペテロ第二 3:18）。

しそまき

【材料】（ ６０個分 ）

大葉	６０枚
味噌	５０ｇ
砂糖	５０ｇ
すりゴマ	１０～２０ｇ
くるみ	１０～２０ｇ
豆板醤	小さじ1
小麦粉	２０～３０ｇ
揚げ油	適量

【作り方】

1. 大葉は洗って水気をふき取ります。
2. くるみはすり鉢でするか、フードプロセッサーで細かくします。
3. 味噌・砂糖・すりゴマ・くるみ・豆板醤を混ぜ合わせます。
4. 小麦粉を少しずついれ、ピーナツバターくらいの固さになるまで混ぜます。
5. 冷蔵庫で一晩寝かせます。時間が無いときは1～2時間寝かせるだけでもOKです。
6. これで種の完成。
7. 大葉に種を、すくなめに乗せ、大葉をクルクル巻きます。
8. 爪楊枝に出来たしそ巻きをさします。
9. １４０～１６０℃の油で片面２０～３０秒くらいずつ揚げます。
10. 大葉が綺麗な緑色になる手前であげるといい色に仕上がります。
11. 油からあげ、さめたら完成です！

【コツ・ポイント】

種が多いと揚げている最中に出てくることがあるので少なめで。
ゴマやくるみ、豆板醤はお好みで量を調整してください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

高いところでの助け

このように、
あなたがたは主キリスト・イエスを
受けいれたのだから、
彼にあって歩きなさい。（コロサイ 2:6）

むかし、小さい男の子と女の子が、ワシントンという町で育ちました。その近所には、かつてお金持ちの家族が住んでいた大きな土地がありました。その広い正面（しょうめん）は往来（おうらい）のはげしい通りに面していました。時はうつり、お金持ちの家族はいなくなって、いまその土地は共同住宅（きょうどうじゅうたく）のものとなりました。しかし、一つだけ以前と変わらないものは、切り石でたてられたもともとの壁（かべ）でした。それはあつくて広くて、てっぺんはなめらかでしっかりしたコンクリートになっていました。この壁は、かつて何百エーカーもの広かった土地をぐるっと囲んでいました。この壁は子どもの背（せ）たけよりも高（たか）い壁でした。

あるひ、子どもたちが、お母さんと長い道を歩（ある）いていましたが、ただ歩道（ほどう）を歩くよりは、壁のてっぺんを歩くほうがおもしろいのではないかと思いつきました。そこで、お母さんは男の子を壁のてっぺんに持ち上げて壁の上にのせ、そして男の子が上を歩いているときにその手をにぎっていました。お母さんは壁にそって草の上を歩きながら、男の子のよこにぴったりと歩きつづけました。それから、次に女の子もやってみることにしました。ついに、子どもたちは大きくなったとき、完全に自分た

（45 ページに続く）